

「ピッコラーレ」とは

ピコ(「おへそ」「中心・核」を意味するハワイ語)とココラーレ(「寄り添う」を意味するイタリア語)を組み合わせた造語です。相談窓口や相談支援員が、たった一人で漂流しなげなかつた相談者にとって安心でほっとできる潮溜まりのような居場所でありたいという想いを込めています。

団体概要

団体名称

認定NPO法人 ピッコラーレ

団体ヒストリー

- 2015年 9月 助産師6名、社会福祉士1名で任意団体として「にんしんSOS東京」を発足
- 2015年12月 妊娠葛藤相談窓口「にんしんSOS東京」を開始
- 2016年 3月 一般社団法人にんしんSOS東京を設立
- 2018年11月 特定非営利活動法人ピッコラーレ設立
- 2019年 4月 全ての事業を一般社団法人にんしんSOS東京からピッコラーレに移管
- 2020年 6月 妊婦のための居場所づくりprojectHOME第1号「びさら」受け入れ開始
- 2022年12月 認定NPO法人を取得

Piccolare Annual Report 2023

認定NPO法人ピッコラーレ 2023年度活動報告書

発行 2024年9月


認定NPO法人 ピッコラーレ

〒171-0021 東京都豊島区西池袋5-10-24深野ビル2F

050-3134-4479

info@piccolare.org

https://piccolare.org



project HOME

https://home.piccolare.org/



Facebook



メルマガ



Instagram



絵・相野谷 由起

Piccolare Annual Report 2023



認定NPO法人ピッコラーレ 2023年度活動報告書



認定NPO法人
ピッコラーレ

「生きていていいのだ」そう思える社会を、一緒に

ピッコラーレに繋がる若者や子どもたち、そしてピッコラーレスタッフへの温かな応援をいつもありがとうございます。
おかげさまでピッコラーレは2023年11月、設立5周年を迎えることができました。
また2023年12月には前身団体から継続して運営している妊娠葛藤相談窓口『**にんしんSOS東京**』は9年目、居場所を持たない妊婦のための居場所『**ぴさら**』は4年目に入りました。

「ないなら作ろう」

そうやって始めたこれらの活動と並行し、政策立案の現場である国への働きかけも継続的に行ってきた結果、新しい法律や制度も生まれています。その結果、だんだんと同様の取り組みが様々な担い手によって全国に広がり、他団体と定期的な勉強会や学会発表などネットワーキングも始まっています。

おそらく数年後には『**にんしんSOS東京**』や『**ぴさら**』のような取り組みは「どこに住んでいても当たり前にある」ものとなっていくでしょう。
しかし、そんな「当たり前」が叶ったとしても「にんしんをきっかけに誰もが孤立することなく自由に幸せに生きることができる社会」の実現のためにはまだまだ必要なことがあります。

それは社会のまなざしの変容です。

誰にも気づかれることなく、一人きりで出産し、新生児遺棄に至った方に対し「自己責任」を問う冷たい空気は支援の現場でも感じます。「もう死ぬしかない、助けて」という小さな声に「どうしたの?」と声をかけ、「大丈夫」と言えるにはどうしたらいいのか。

5周年の節目を迎え、これからのピッコラーレは今までより一層、地域や社会の様々な場所でみなさんと性と生殖に関する健康と権利 (SRHR)※について対話することが大切なのではないか、そう考え始めています。

私たち一人ひとりが、性や妊娠出産のあらゆる場面で権利の主体であること。
そして手にすることができる選択の幅に不公平さがなく、選択の内容によって社会からスティグマや差別をされないこと。

性と生殖に関する健康と権利 (SRHR) は、人が人である限り保障されるべき絶対的権利であり、人権です。
「自分の体のことは自分で決めていい」とはどういうことなのか、みなさんと共に考え、社会のまなざしを優しいものに変えていきたいと思っています。

※ 性と生殖に関する健康と権利 (SRHR: Sexual and Reproductive Health and Rights)
具体的には、性と生殖について、私たち一人ひとりが適切な知識と自己決定権を持ち、自分の意思で必要なヘルスケアを受けることができ、みずからの尊厳と健康を守れることです。
JOICEF: https://www.joicfp.or.jp/jpn/known/about_srhr/what_is_srhr/ より



右は、「ぴさら」の卒業生が5周年を記念しスタッフと一緒に考えデザインしてくれたロゴです。
「ピッコラーレ」を支えるのは2匹の小さなダンゴウオ。
「一生懸命支えているんだけど、2匹のダンゴウオだけじゃ大変だから!」
「いろんな人に参加してもらおう!」そんな話をしながら作成してくれたそうです。



このロゴを見るたびに、みなさんがダンゴウオの仲間であってくださったからこそ活動を継続できたのだなぁと嬉しく励まされています。ありがとうございます。

誰からもその選択を否定されず、「生きていていいのだ」そう思える社会を、いつも私たちと共に在ってくださる皆さんと一緒に。

心からの感謝を込めて。

認定NPO法人ピッコラーレ
代表理事

中島 かおり

ピッコラーレが取り組む4つの事業

妊娠葛藤相談窓口寄せられる声を聞くことによって見えてきた課題解決へ向けて、相談支援事業のほか3つの事業を展開。

1 相談支援事業	3つの妊娠葛藤相談窓口と中絶後の相談窓口を運営				電話 16-23時 メール 24時間 チャット相談 びこトーク にんしんSOS東京 週3日/2時間	365日 開設
	にんしんSOS東京 2015年12月より 自主事業として開設	PUPU (プープ) 2020年2月より 中絶後相談窓口	2018年7月 埼玉県より受託	2019年1月 千葉県より受託		

2
居場所事業

居所なし若年妊婦等への
安心・安全な居場所づくり事業
包括的性教育の普及

3
研修・啓発

妊娠葛藤相談窓口の普及
妊娠葛藤相談支援員のスキルアップ

4
調査研究・政策提言

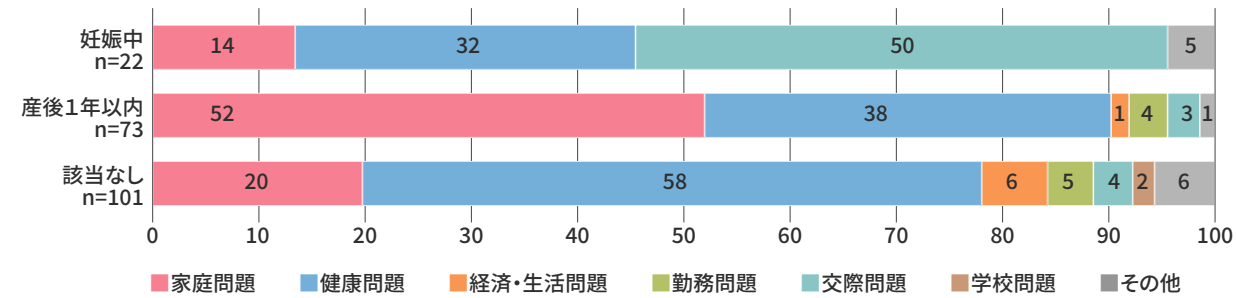
妊娠葛藤を社会課題として
可視化するために、
白書作成・政策提言・要望書の提出など

もう死ぬしかないと思っていた

妊娠・産後の状況別、年齢階級別の自殺者数(自殺日集計)

(自殺日集計)	計	20歳代	30歳代	40歳代	その他の年齢階級 (20歳未満、50歳以上、不詳)
女性	7,101	805	760	1,051	4,485
妊娠中	18	12	4	2	0
産後1年以内	47	10	28	9	0
該当なし	7,036	783	728	1,040	4,485

自殺の原因・動機の構成比



「令和5年版自殺対策白書」で、初めて「妊娠・産後の状況別の自殺の詳細」が公表されました。

上のグラフは、白書から抜粋したものです。それによると、

- ・2022年の妊娠中と産後1年以内の妊産婦の自殺は**65件**
- ・20歳代の自殺者の約**3%**、30歳代の自殺者の約**4%**が、妊産婦
- ・妊娠中の自殺の**66%**が**20歳代**
- ・産後1年以内の自殺の**60%**が**30歳代**

という結果でした。

また、妊娠中の自殺原因の50%は「交際問題」という結果となっています。

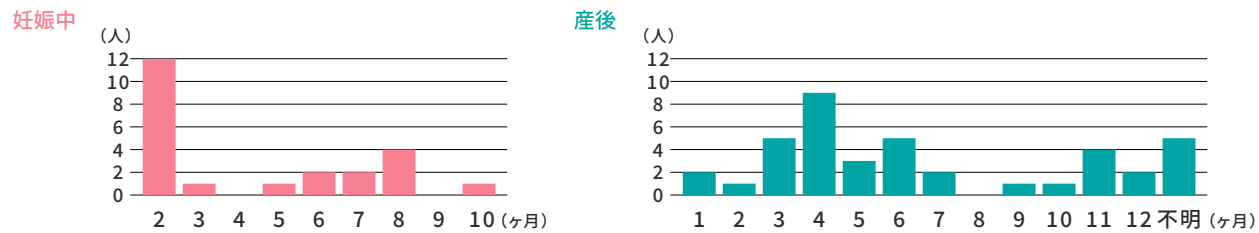
「このデータから何を読み取るかについては、解釈に足る数が確保できているとは言えず、注意が必要である」と注意書きがありますが、このデータは私たちにとっては意外なものではありませんでした。

事実、相談窓口に繋がる10代20代の妊婦は、死にたい思いを抱えている方たちが少なくありませんし、妊娠がわかった途端にパートナーと連絡が取れなくなり、一人で妊娠を抱えなければならなくなるケースは、とても多いのです。



自殺時期は妊娠に気づいたときが最多

日本産婦人科医学会東京都23区の妊産婦の異状死の実態調査2005～2014年より



これは、10年前の調査ですが、妊婦の自殺の時期は妊娠2ヶ月が最多というデータがあります。妊娠2ヶ月とは、月経が遅れたことで不安になり、妊娠検査薬で確認する時期ではないかと思えます。

私たちの相談窓口も、「死」「死にたい」「消えたい」「生きていない方がいい」などの言葉で溢れています。「にんしんSOS東京」の記録票からざっと拾ってみただけでも、「死」という言葉は1552件、「死にたい」は403件、「消えたい」は158件、記録されています(2016年1月～2023年3月)。

「もう死ぬしかないと思っていたけど、どうせ死ぬなら相談してからでもいいか、と思った。助けてください」

「どうせ死ぬなら相談してからでもいいか、と思った」

みなさんは、この言葉をどう受け止めるでしょうか？

「このままではいけない、どうにかしなくてはならない、死ななくてもいい方法を一緒に考えて欲しい…」という気持ちが、私たちに連絡をさせているのかも知れません。けれど、それだけではないのではないかと考えるのです。

私たちが相談者の方たちとやりとりを重ねる中で、何度も思い浮かぶ言葉があります。

「私って透明人間みたいだね」

私はここにいる。たくさんの感情を持って痛みも感じている私はここにいる。なのに、いつもいないものように扱われてきた。自分の存在を受け止めてくれる人は誰もいなかった。そんな思いを含んだ言葉が「透明人間」です。

「見捨てられて死にたいという気持ちは以前からありました。この相談窓口だけが、私を否定せずに受け入れてくれるので、安心できます。今のところここしか私の居場所はありません」

困難なことが起きても、これまでずっとたった一人で引き受け、誰の助けも得られず生きてきた相談者の方たちは、少なくありません。そんな方たちの「どうせ死ぬなら相談してからでもいいか、と思った」という言葉は、もちろん、この妊娠をどうにかしたい、助けて欲しい、という気持ちもあるでしょう。でも、それよりも「死ぬしかないと思っている自分がここにいることを知ってほしい。ここにいる自分を“いないもの”にしないでほしい」という叫びのようなものなのかもしれないと考えてくるとです。

第5次から第18次報告の虐待による死亡事例における同居している家族構成にかかる概況

こども虐待による死亡事例等の検証結果等について(第19次報告2023年)より

	総計	実父母	ひとり親同居者なし	ひとり親同居者あり	肉親関係	再婚等	その他	不明
0日死亡	127	13	15	56	10	0	14	19
	17.0%	3.7%	20.5%	47.9%	15.2%	0.0%	51.9%	25.7%

これは、こども虐待による死亡事例等の検証結果等について(第19次報告2023年)での調査結果です。

加害者となってしまった妊婦が、誰かと同居していたかどうかを調査しました。0日死亡は、「ひとり親(同居者あり)」が47.9%で最多でした。同居者がいても、誰も妊娠に気づかなかったということでしょう。あるいは、気づかないふりをしていたのか。妊婦であるその人は、家族や同居者との暮らしの中でも、透明人間だったのかもしれない。

「自業自得だなと思うけど、ただ死にたいと思います。それしかないと思っています」

「中絶するにしても、産むにしても、自分のせいでこんなことになっているのに、1人で解決方法も考えられず、相談のメールを打つことしかできない自分が本当に馬鹿だと思います。毎日死にたいです」

妊娠をたった一人で抱え込み、自責の念にかられ、身動きが取れなくなっている姿がここにはあります。妊娠は妊娠当事者の自己責任でどうにかするのは当然、なのでしょうが？

「早く何とかしたくて悩み、死にたい気持ちでした。お金ないから全て無理なんだと生きてきました」

「お金がなく、病院に行けません。無理やりの性行為でした。毎日死にたいと思っています」

妊娠葛藤を解決するには、お金が必要です。中絶するにも10万～100万円近くかかることもあります。出産するにしても、同じくらいかそれ以上に必要になることもあるのです。

それを、妊娠当事者がすべて背負い込まなければならないとしたら、生きる意欲が奪われてしまってもおかしくないでしょう。私たちの社会は、こんなふう妊婦を孤立させ、追い詰めてしまっている側面があることを伝えたいと思いました。

妊娠が「死」につながらないように。

産む産まない、育てる育てないに関わらず、妊娠がその人の幸福につながるように。

それには、どんなこと、どんなもの、どんな制度が必要なのか、私たちは考えつづけています。

「にんしん」をきっかけにだれもが孤立することなく、自由にしあわせに生きていくことができる社会へ

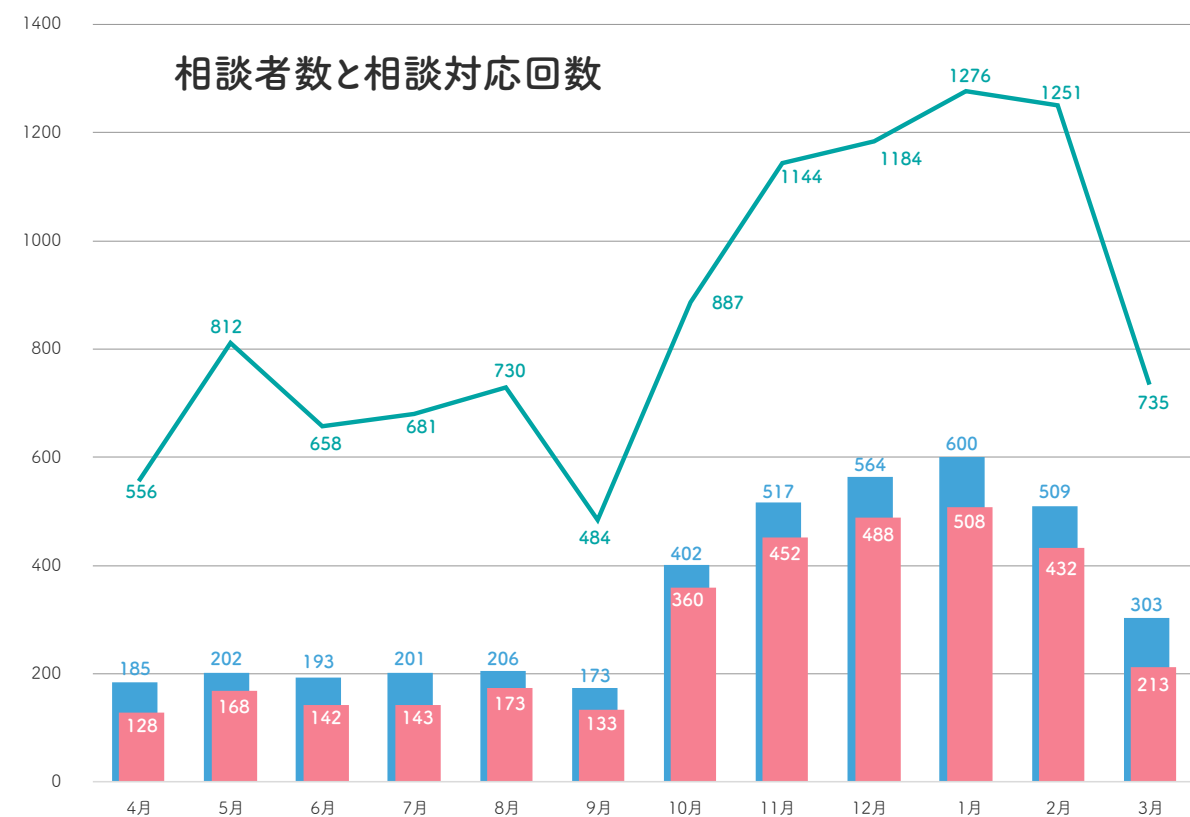
みなさんと一緒に、そんな社会をつくっていきたくて願っています。



1-1 相談支援事業

「にんしんSOS東京」の相談窓口では、2022年度は、毎月約200人を超える方たちからの相談を受けてきましたが、2023年度上半期は約170人（このうち新規相談者は約150人）と相談者数の減少が見られました。その原因として、私たちがつながりたい葛藤を抱えている妊婦の方たちに「にんしんSOS東京」の情報を届けることができていないのではないかと考えました。

そこで、2023年10月から2024年2月までの5か月間、助成金を活用し、試験的にSNSの検索ツールに広告を出しました。その結果、それまでに比べて2～3倍の相談者の方たちからの相談がありました。この間の相談内容は、若年者からの妊娠確定前の相談が多く寄せられています。このことから、この試みは、若年層への相談窓口の周知、相談することへのハードルを下げることに、また危機的妊娠の予防に繋がったのではないかと考えています。



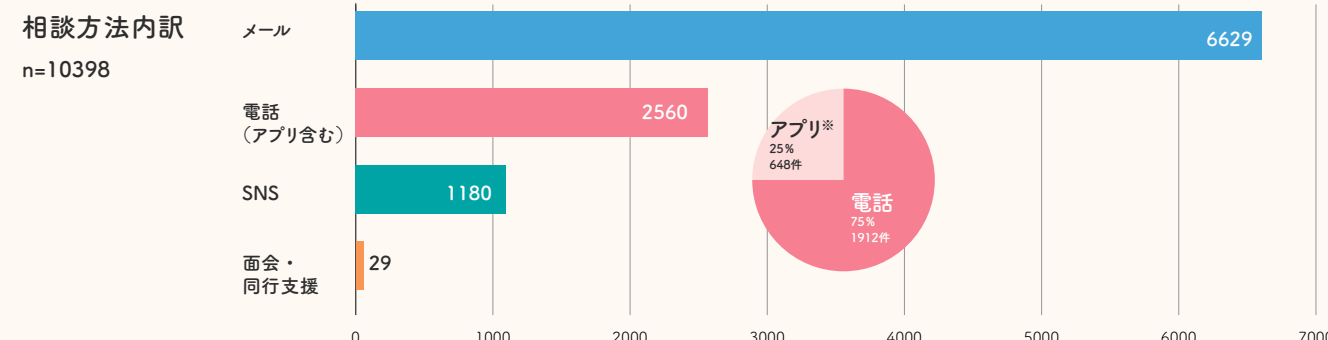
■ 対応相談件数 ■ 新規相談者数 ■ 相談対応回数 2023年4月1日～2024年3月31日 にんしんSOS東京

2023年度、対応相談者数は3,454人。
 そのうち新規の相談者数は3,340人。
 相談対応回数は10,398回（過去最高値）。
 相談者一人につき平均3回の相談対応を
 していることになりました。



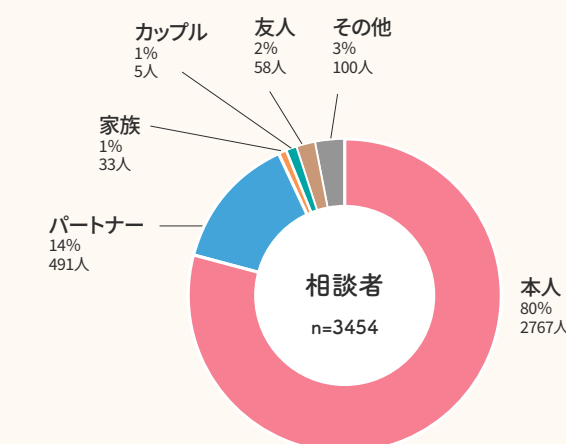
相談方法内訳

メールでの相談は全体の64%を占めていますが、電話相談件数は昨年度に比べると500件増えており、以前より、「直接話す」ことが必要とされているのかもしれませんが。電話相談のうち無料アプリを利用した相談が、2022年度より8ポイント増えています。SNS相談は、2023年10月から、それまで行ってきたTwitterのDM相談窓口を閉め、秘匿性が高いピッコラー独自のチャット相談窓口（週3回、それぞれ2時間）を開設しました。



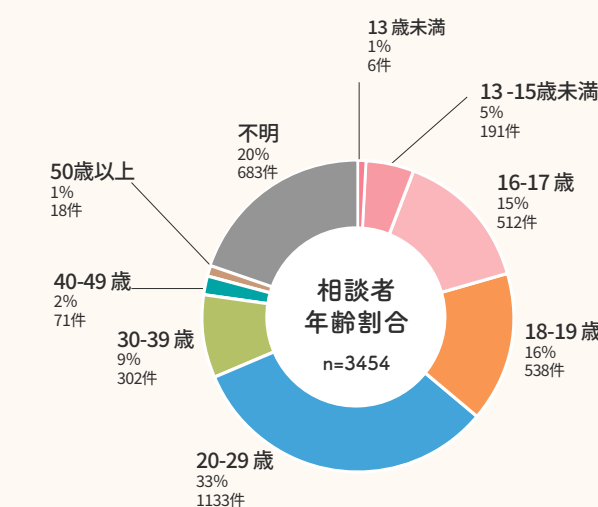
相談者の属性

男性からの相談が14%ありました。パートナーの妊娠を心配しての相談がほとんどですが、中には、DV被害男性からの相談もありました。



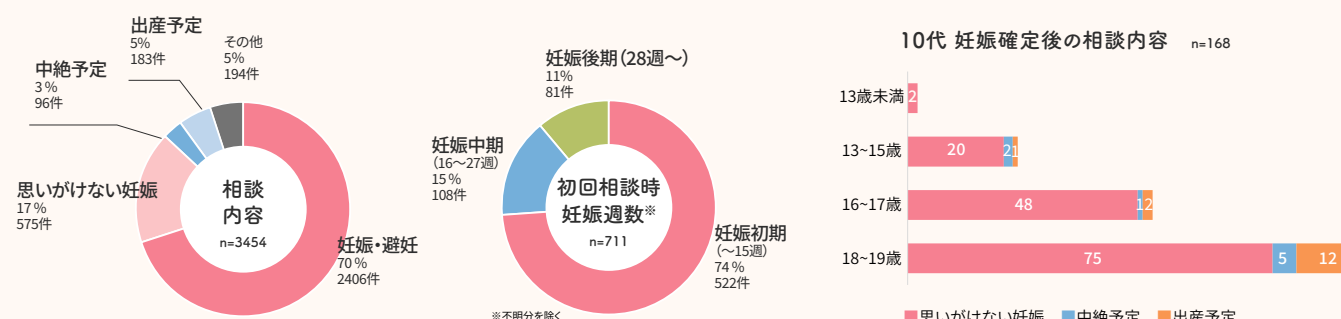
相談者年齢割合

2023年度も、10代、20代の若年者からの相談が7割を占めました。



相談内容

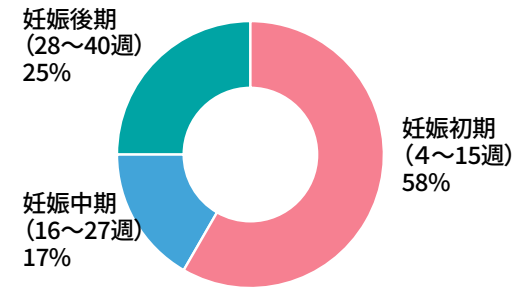
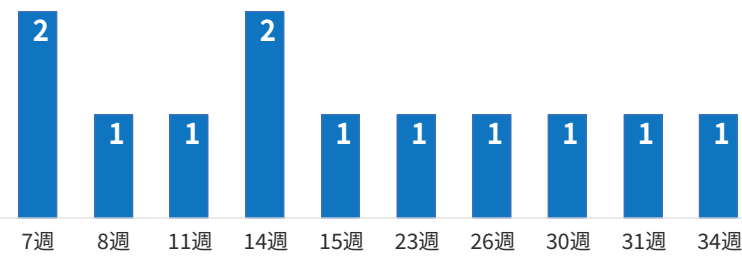
2023年度も妊娠確定前の「妊娠したかも」相談が7割を占めています。妊娠確定後の相談が3割でした。内訳を見ると妊娠初期が74%と最多でした。中絶可能時期の21週までの相談は590件、22週以降の相談は121件でした。いつお産が始まってもおかしくない時期の36週以降の相談は25件、そのうち38週以降になってからの相談は8件ありました。10代の妊娠確定後の相談は168件。妊娠確定後の相談全体の約2割を占めています。



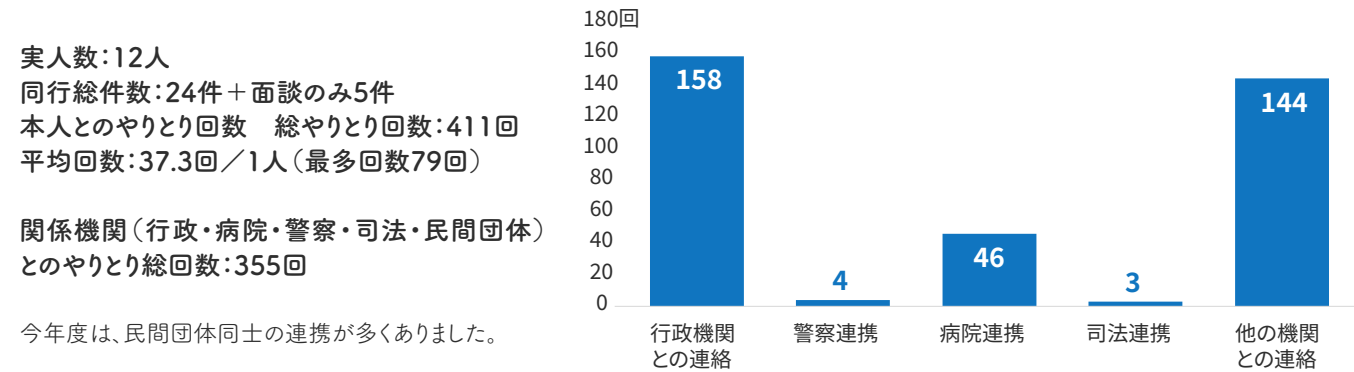
1-2 相談支援事業 面談・同行支援

ピッコラーレでは、相談者の方たちを病院や行政につなぐために、同行支援を行っています。
2023年度は18歳から36歳まで、12人の面談同行を実施しました。

同行ケース：相談時の妊娠週数



今年度は妊娠初期での相談が58%でした。
居所のない妊婦がほとんどで、行政とつながるまでの間、ビジネスホテルの宿泊提供をしたケースが6ケースありました。



「東京アンブレラ基金」と「つながる電話プロジェクト」

一般社団法人つくろい東京ファンドが中心となって設立し、ピッコラーレも協働団体として参加している「東京アンブレラ基金」と「つながる電話プロジェクト」。居所のない妊婦、音声通話可能な携帯電話を持たない妊婦にとって、なくてはならない民間支援の一つとなっています。

東京アンブレラ基金

緊急に居所が必要な相談者に対して、最大1週間程度のホテル代を負担します。
ネットカフェやSNSで知り合った男性宅など、危険が伴う場所から私たちの窓口へSOSの連絡が入ることがあります。行政につながり、次の居場所が決まるまでの間、少しでも安心安全な場所で足をまっすぐに伸ばして休んでもらいたいと考えこの基金を利用しています。

ピッコラーレ2023年度の利用実績 **6ケース 31泊**

つながる電話プロジェクト

「音声通話可能な携帯電話を持っていない」相談者は少なくありません。通話可能な電話がないと、病院や行政とのやりとりができません。また、陣痛タクシーを呼ぶこともできません。そこで、「誰からの電話でも受信はできるが、発信は電話番号を登録してある相手のみ」という仕組みの携帯電話を本人負担0円で貸し出すプロジェクトを作りました。

ピッコラーレ2023年度の利用実績 **6台 貸し出し**



中絶後の相談窓口

PUPU プニ



PUPUは中絶後の相談窓口です。ハワイ語で2枚貝を意味する言葉です。
相談員は相談者さんを優しく包むイメージを大切に日々学び、相談を受けています。

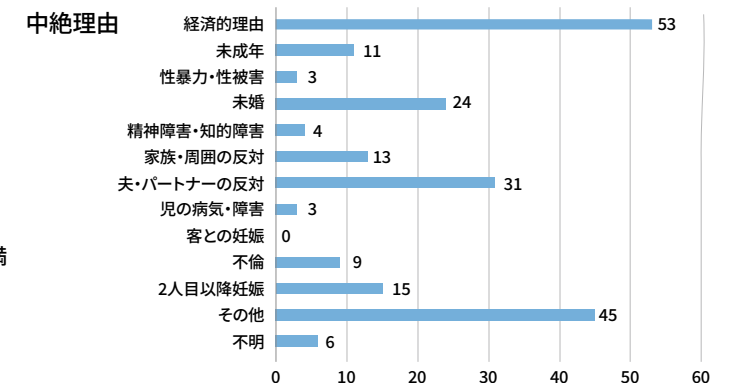
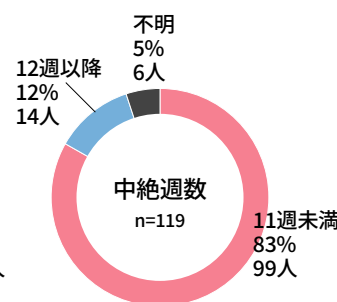
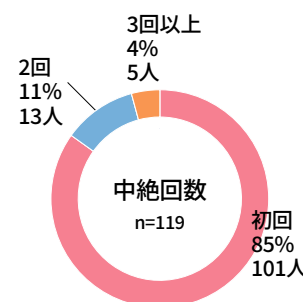
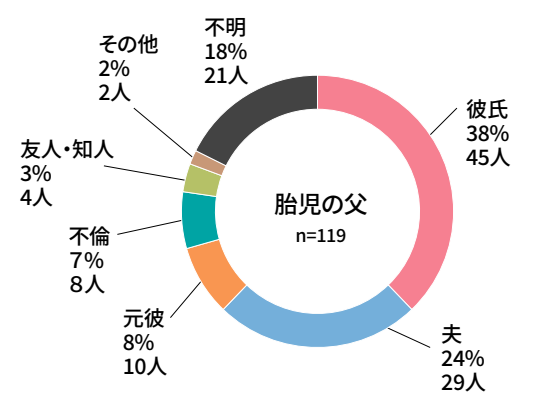
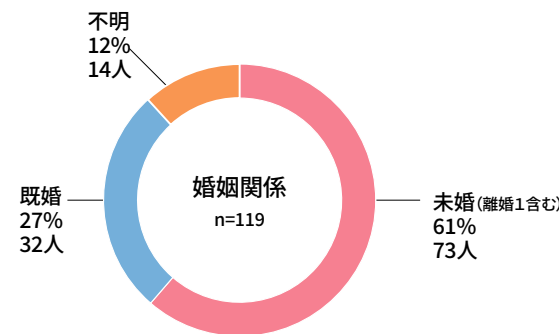
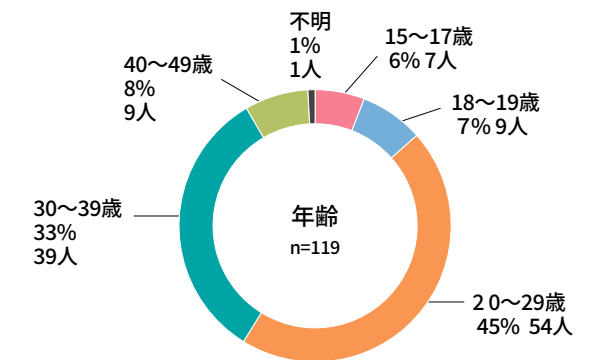
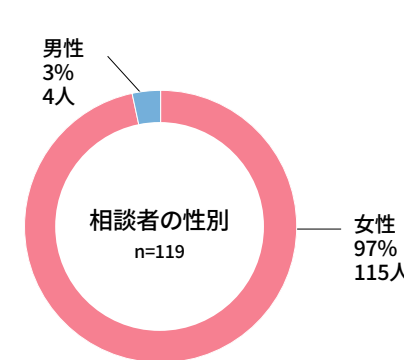
相談はメールのみ。週に1度のゆっくりとしたペースでお返事をしています。

2023年度は、昨年から引き続き、経済的な理由や高齢出産でのご相談が多く占めています。女性からの相談が大半ですが男性からもご相談を受けました。また、中絶後すぐにご相談いただいたケースが多い中で数年、十数年経過した方からのご相談も受けました。中絶後に誰にも相談できずに長く苦しんでいる女性がいることを改めてケースを通して理解しました。

ご相談を受ける中で、罪悪感はどこからくるのだろうかという大きな課題を日々感じています。

自分で抱えきれずに周囲に相談したけれど、中絶に対する社会的な理解が少ないため二次的に傷つき苦しむ女性が多いことも現状です。相談内容から見えてきた中絶に関する社会的な実態を更に深めて女性がより健全に生活できるように何が考えられるか、相談員同士で月に1度ミーティングし中絶窓口の相談を深めていけるように努めています。

2023年度は119人の方から相談がありました。



2-1 若年妊婦の居場所 「ぴさら」



4年目に入った若年妊婦の居場所「ぴさら」

おかげさまで「ぴさら」の運営は2023年6月で4年目に入りました。6月にはこれまでの「ぴさら」3年間のあゆみをまとめた冊子を発行、8月には千川から同じ豊島区内の西池袋に引越しをしました。ぐっと広くなった「ぴさら」では、孤立した若年妊婦と生まれてきた新生児への支援だけでなく、「ぴさら」を卒業し地域で暮らしている母子のアフターケア事業も本格的に始まっています。



2023年度「ぴさら」利用状況

2023.4~2024.3



- 「ぴさら」は妊娠の週数によらず利用を開始することができます。23年度は、妊娠初期から後期まで幅広いニーズ(妊娠初期:1人、妊娠中期:1人、妊娠後期:2人)がありました。
 - 若者支援団体、難民支援団体など他の民間団体との連携や行政の様々な担当部署など連携先は多岐にわたりました。
 - 「ぴさら」卒業後の生活拠点決定までに時間がかかることにより、一人一人の利用期間が長期化し、利用者の人数は減少しました。
 - 外国籍の妊婦の受け入れもあり、スタッフみんなでアプリを利用した英語以外の言語でのコミュニケーションや好みに合わせた料理をつくるなど多様なニーズへの対応を実施しました。
- ※1 「利用者の中には、出産～産後を「ぴさら」で暮らした後、生まれてきた赤ちゃんと一緒にパートナーとアパートなどで生活をする方もいます。その場合はアパートでの3人暮らしを始める前に、パートナーも「ぴさら」に数日宿泊し、赤ちゃんがいる生活を体験してもらったこともありました。滞在中にスタッフの見守りの中で実際に新生児のお世話や家事などを体験し、彼自身にとっても「ぴさら」が何かあった時の頼り先だと思ってもらえるようになります。
- ※2 2022年度と比較し平均利用日数は増加しました。(参考:2022年度平均利用日数60.1日)産後の身体の回復や赤ちゃんとの生活に慣れるまでにこれまでに以上時間が必要な場合もありました。母子生活支援施設への拒否感が強い、あるいはアパートの契約に時間がかかるなど「ぴさら」の次の行き先がなかなか決まらないなどの理由で利用が延長されることもありました。
- ※3 引越して「ぴさら」を閉じていた2か月間を除いた稼働率は96.4%でした。
- ※4 例年同様に広域での利用が多い傾向がありました。

まだまだここから — 長く続く回復の過程に寄り添う

2023年度、私たちスタッフは「ぴさら」の利用者さんたちのそばで何度「ふりまわされてなんぼ」と唱えたかわかりません。

「ぴさら」の利用者のほとんどがリストカット、OD、飛び降りなどなんらかの自殺企図の経験をしています。「ぴさら」にたどり着いた後も希死念慮を抱えたままであることも珍しくありません。死にたい気持ちを抱えながらどうにか生き延びてきた彼らを目の前にした時、無力感に押しつぶされそうになることは幾度もあります。

傷だらけの彼らに特効薬があるわけではありません。特効薬どころかどんな手当ができるのかもわからないまま手探りで、彼らに少しでも安心してほしい、彼らの健康と権利を守りたい、その一心で取り組んでいます。

ある女の子が産後、地域での暮らしを始めてすぐに自殺企図をし、搬送の救急車に同乗したことがあります。運ばれた病院で治療を受け、数日後の退院にも付き添いました。退院の手続きをして外に出たら、ドーンという音とともに大きな花火が空いっぱいにあがりました。

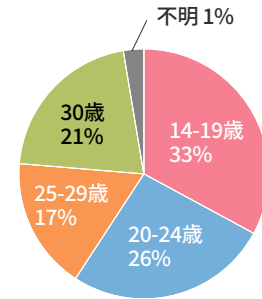
「きれいだね」
その女の子の思いがけず一緒にみた2023年夏の花火。あの日のことを今も彼女と思い出として話せることこそが「ぴさら」を続けている意味のように感じています。

「ぴさら」に繋がり、孤立分岐に至らなかったとしても、それはその後も続く長い回復の過程のひとつにすぎません。まだまだここから。スタッフである私たちのセルフケアも大切に「ぴさら」の毎日は続いていきます。

ピッコラーレが繋がった居住支援の必要な妊婦の属性内訳 2023年度

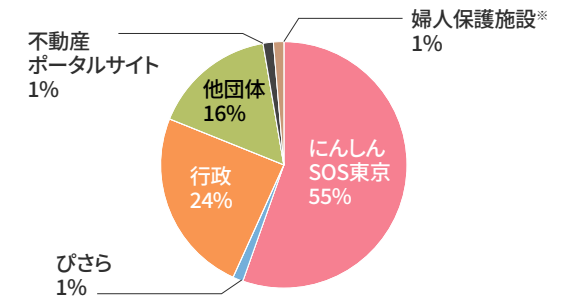
「にんしんSOS東京」への相談のうち居所が不安定な方からの相談、また連携先から「ぴさら」に入った利用問い合わせの相談は計75件でした。

年齢内訳



居住支援が必要な妊婦の59.2%が25歳未満でした。(日本の初産年齢は平均30.9歳)

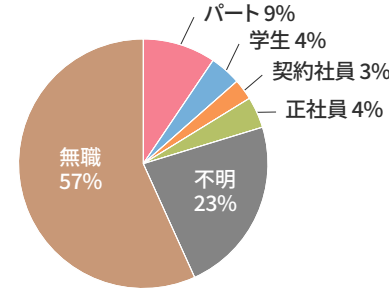
問い合わせ経由



問い合わせの24%が行政からであり、公的支援の枠組みの中に妊産婦の住まい支援が抜け落ちていることがわかります。

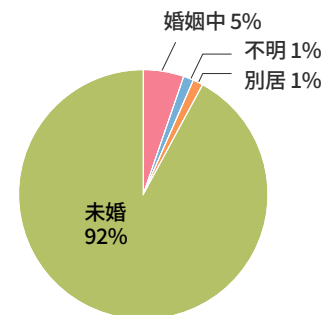
※ 女性支援新法の施行(24年4月1日)に伴い、「婦人保護施設」から「女性自立支援施設」に名称変更されました。

就学・就業状況



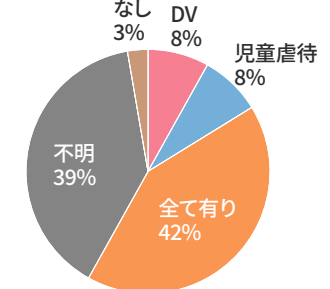
正社員は4%しかおらず、産休育休がない可能性が高く、妊娠によって収入を失うリスクがより高いことが推測されます。

婚姻状況



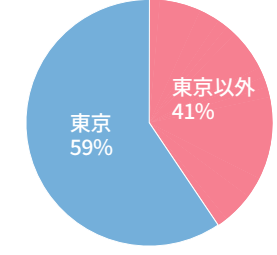
92%が未婚であり、頼れる身近な人の不在が背景にあります。

DV・虐待の有無



DVや虐待を受けている方が半数を占めており、危険な環境で妊娠期を過ごしているのではないかと心配されます。

現在地



東京都以外からの問い合わせが40%を占めており、様々な地域で妊娠期の居場所が必要とされています。



妊婦の居場所は全国に必要

可視化されたデータからわかるのは、居所が不安定な妊婦の多くが若年であり、就労状況も不安定であること。

そして背景に暴力や虐待など様々な困難を複数抱えている状況の中で妊娠をしているということです。

抱える困難の種類や背景は「ぴさら」の利用者の状況と重なっており、

居場所なく孤立したままの若年妊婦にまだまだ支援が足りていないことが推測されます。



2 -1 若年妊婦の居場所
「びさら」



2023年7月に新拠点にお引越しをしました！

新しい「びさら」は、「豊島区地域貢献型空き家活用事業」と学校法人立教学院さま、近代産業株式会社さまの協力のもと、新しい拠点での運営を継続しています。地域の皆さまのご協力で改めてお礼申し上げます。

— 全国の仲間とともに —

妊娠期の居場所づくりについて考える共同勉強会を定期開催

特定妊婦・若年妊婦の支援活動に取り組む各地の団体が、組織や地域の枠を超えて共に学び合い、交流する場として「共同勉強会」を2021年に開始。

1. 支援現場での困りごとから場の運営、地域との関わり方、資金調達・予算折衝に至るまで、何か課題に直面したときに助け合い、支え合えること。
2. 制度の狭間に陥りがちな特定妊婦・若年妊婦を、現行の縦割り制度の弊害を取り除きながら社会として手厚く支えていくために共に声を挙げること。

これら2点を柱に、2023年度も定期的な集まりを重ね、24年2月には、共同勉強会主催で、「妊娠期の居場所づくりシンポジウム～R6から施行される改正児童福祉法(妊産婦等生活援助事業)に向けて～」も開催しました。妊婦の居場所が全国に増えていくように、また、組織の枠を超えてエンパワメントし合える仲間と繋がる場として、来年度以降も継続開催していきます。

参画団体

社会福祉法人 大念仏寺社会事業団 ポ・ドーム ダイヤモンドルーム
沖縄の特定妊婦の出産を支える宿泊施設「おにわ」
公益社団法人 小さないのちのドア
社会福祉法人 慈愛会 女性自立支援施設 慈愛寮
社会福祉法人 豊生会 こどもと女性包括支援センター-halu
認定NPO法人 10代・20代の妊娠SOS 新宿キッズ&ファミリー
社会福祉法人 麦の子会 にんしんSOSほっかいどうサポートセンター
認定NPO法人 ピッコラーレ
NPO法人 PIECES

ピッコラーレの
新たな取り組み

「びさら」の実践を通して、
「妊婦の居場所」立ち上げを支援

「若年妊婦の居場所を作りたい」「支援員の育成研修を必要としている」など、全国で同様の取り組みを行いたいと思っているみなさんの声に、立ち上げの支援や育成研修の提供を通して応えていくことで若年妊婦の支援の充実に貢献していきたいと考えています。



いつでも戻って来れる場所
～アフターケア「ぴこさと」開始しています～

びさら卒業後、地域での生活を始めた母子が実家のように利用できるアフターケア活動「ぴこさと」を2023年9月より開始しました！卒業生であれば誰でも参加できる「ひだまり食堂」の定期開催や、ショートステイ受け入れなどの個別対応、また、必要に応じて彼らの新たな住まいへ出向いて支援するアウトリーチも行っています。

「ぴこさと」は、産む、産まない、子どもを里親などに託して育ててもらうなど、どのような選択をしても、「びさら」を巣立った後、それぞれの地域での暮らしの中で、ちょっと疲れを感じたり、誰かに相談したいことができたり、ふっと「びさら」の日々が懐かしくなったり、そんな時は里帰りをするように、思いつきでふらりと安心して戻ってこられる場所、自分がここにいていいんだと思える場所にしていきたいと思っています。

また、新しい拠点には「アネモネ」という気持ちの相談ができる部屋を作りました。ここを訪れる若者が抱えるトラウマなどについて、ゆっくり心理の専門家に話ができる場所です。「アネモネ」は「びさら」ステイ者だけでなく、「びさら」卒業生にも利用してもらっています。



2023年度
アフターケア「ぴこさと」利用状況

2023.9～2024.3

「アネモネ」利用
延べ12名

デイ利用
37名

ショートステイ
2名※

※その他、幼児3人も
ショートステイ利用

ひだまり食堂
5回開催
延べ参加者：24人



2 - 2

出張「ピコの保健室」

ピコタイムでの包括的な性教育の実践

性に関することや、からだ・心、家族・友だち、進路・就職のことなど、何でも話せる「保健室」ー2021年1月から始まった出張保健室も3年目となりました。困った時、わからない時には、ちょっと相談してみようかなと思ってもらえるように、若者たちが普段から集まる居場所に定期的に行っておくことは、相談のハードルを下げることににつながるのではないかと考えています。

知識

教えられるだけではなく、一緒に考えたり自由に質問ができる場所

わかっているつもりでも、自分達の状況にあわせて考えてみた時、あいまいで、自信がないことも多い。

態度

「こういう時はどうする?」と、投げかけることで、自由にそれぞれの考えを話すことができる場所

性の知識が不足しているというけれど、授業数も少ないし、振り返りをする機会もないから試験が終わると忘れてしまう。

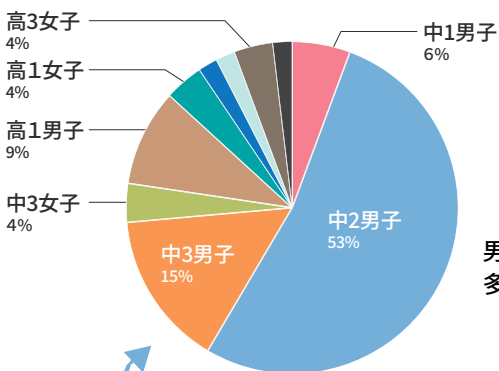
スキル

嫌だと思っても、好きな人から言われると、断わりづらいことはある。そんな時に、どのような伝え方ができるのか、友だちとも一緒に考えてみる場所

コンドームに触ったことがない中高生は多い。いざというときのためにも、正しく使えるようになっておくことは必要。

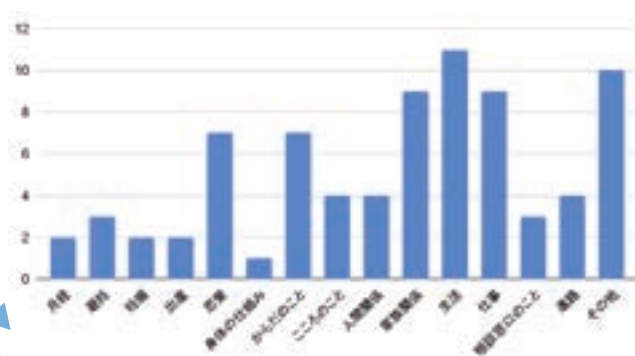
出張保健室「ピコタイム」延べ利用者数 150人 / 2023.4-2024.3

利用者



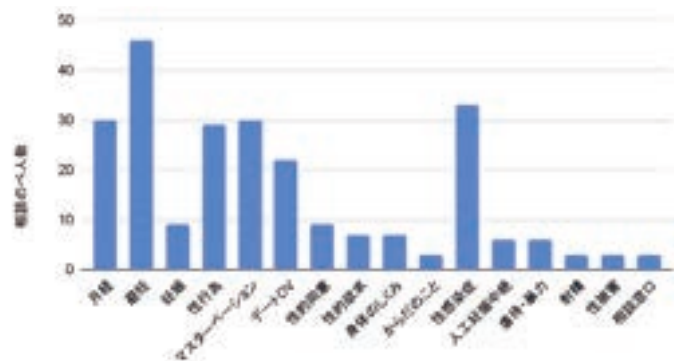
男子の利用が多かった

若者の居場所(10代後半~20代)での相談内容(延べ人数)



この居場所では、誰かと一緒というよりも、個別で相談を受けたり、話の流れで、相談や質問がでてくることが多い。相談をするという経験をしてこなかった若者たちも多い。

中高生の居場所での相談内容(延べ人数)



2 - 3

若年女性つながりサポート事業 出張相談会

ぴこカフェ

豊島区
受託事業

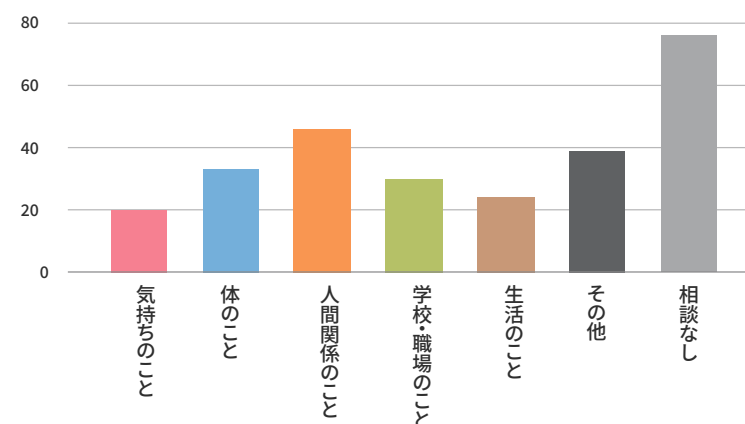
「ぴこカフェ」利用者の年齢は10代~20代前半の方が最も多いですが、全体では10代~30代までいろいろな背景を持つ方が利用しています。性のこと・人間関係のことなど、深刻さの大小によらず質問したり相談できる場や、信頼して話ができる人の存在の大事さを、居場所運営を通して実感しています。中には、その場で判断をして対応をしなくてはいけないことや、行政の公的支援へのつなげ直しを必要とする人が利用されたケースもあり、ソーシャルワークの視点や多職種の人員配置が不可欠な場であることを感じます。

活動も3年目となり、また、令和6年4月1日に「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」が施行されたこともあり、「ぴこカフェ」は様々な地域の行政や民間団体からも関心が寄せられている活動の一つです。

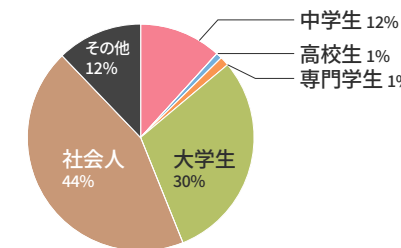
「ぴこカフェ」延べ利用者数 231人 /

開催
24回

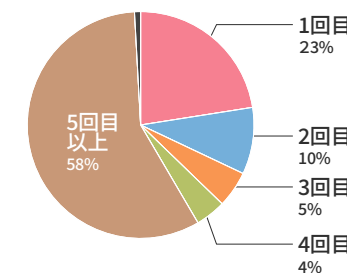
相談の内容の延べ回数(複数回答あり)



職業



今日の「ぴこカフェ」の利用は何回目ですか



毎回2割程度は新規の方が利用しています。リピーターの利用者も多く、「ぴこカフェ」が必要な場として定着していることがわかります。相談であったり、聞いてみたいことがあって来られる方、前日から今日までの間に、自分にどのようなことがあったかを聞いて欲しくて来られる方も多くです。過ごし方は自由であるため、横になって過したり、ひとりで過ごして、最後に少しだけ話をして帰られる人もいます。



2024年度も引き続き月2回(第2火曜日&第4日曜日14:00-18:00*)開催しています。

※開催日時等は変更となる可能性がありますので、最新の情報はピッコラレのX(@piccolare)にてご確認ください。



ピッコラーレは、妊娠葛藤相談窓口「にんしんSOS東京」・妊婦の居場所「ぴさら」・出張型「ピコの保健室」等の運営から見えてくる社会課題の周知、また、支援員のスキルアップや多職種で学び合う機会を提供することを目的に、研修・啓発活動を行っています。

妊娠葛藤相談 支援者養成研修 —妊娠が困りごとになるとき—

2023年度 第2回 妊娠葛藤相談 支援者養成研修プログラム

プログラム 内容	研修A (知識編) 妊娠をめぐる社会課題を学ぶ <small>オンライン開催</small>	
	10:00~10:25	イントロダクション 妊娠が困りごとになるとき
	10:30~11:30	講義①「助けて」と言える社会を目指して ～「にんしんSOS東京」に寄せられる妊娠葛藤の実際と課題～
	11:45~12:30	講義②中絶後の相談窓口「PUPU」から ～置き去りにされる心、ひとりで抱える女性たち～
	13:30~14:45	講義③ 若年妊婦の居場所「ぴさら」の実際 ～いつか自分のHOMEを見つけるために～
15:00~16:00	講義④ ピッコラーレスタイルの保健室 ～ユースフレンドリーな保健室の作り方～	

1 2/3 ±	研修B (実践編) 相談実践から支援の実際を学ぶ <small>現地開催</small>		
	10:00~11:30	講義① 相談事例から妊娠ソーシャルワークを考える	
	11:40~12:40	講義② 相談事例から見える避妊の実際	
	13:40~15:20	グループワーク① 様々な背景を考慮した相談技術 <small>講師 伊東 由希子氏 社会福祉士</small>	
	15:35~17:15	グループワーク② テキスト(メール&チャット)相談	
	2 2/4 日	9:30~11:05	講義③ 困難な背景を持つ妊産婦への支援 ～法的な問題を中心に～ <small>講師 馬場 望氏 弁護士・社会福祉士</small>
		11:15~12:45	グループワーク③電話相談ロールプレイ
		13:45~15:05	グループワーク④人工妊娠中絶を考える
		15:15~16:35	グループワーク⑤ ケースカンファレンス

研修参加者の声

法律や社会制度など馴染みのない分野もありましたが、分かりやすい講義で理解できました。

グループワークが豊富で様々な意見を参考にでき、自分の考えを改めて確認する時間になりました。

事例を交えた講義で、具体的な支援方法を学ぶことができました。実際の相談に活かせる内容でとてもよかったです。

グループワークはとても貴重な学びでした。多職種で意見を交わし考える事が、妊娠葛藤にある当事者の理解に繋がると感じました。

研修B(10月開催)の会場は、株式会社サンシャインシティ様にご協力いただきサンシャインシティ「共創空間」にて実施しました。ご支援・ご協力、ありがとうございました！

すでに妊娠葛藤相談窓口で活動している相談員、これから相談員になりたい方、母子保健・児童福祉・教育・司法・警察など専門機関で女性支援・若者支援に携わっている方などを対象に、2023年度は妊娠葛藤相談支援者養成研修(研修A・B)を2回開催し、延べ219名の方にご参加いただきました。

研修A 妊娠をめぐる社会課題を学ぶ 知識編 オンラインプログラム 参加142人

新生児遺棄や孤立出産を含め様々な「妊娠葛藤」の実際を、ピッコラーレが運営する相談窓口・居場所の活動と事例を通して学びました。

研修B ケースワークを取り入れた実践型 実践編 プログラム(会場開催) 参加77人

1日目の講義では、相談事例を交えて、妊娠ソーシャルワークや避妊の実際について考え、支援現場で役に立つ知識と情報を確認しました。2日目は、馬場望さん(弁護士)より、困難な背景を持つ妊産婦支援における法的な課題についてご講義いただきました。またケースワークを取り入れ、支援の実際を実践的に学び合いました。母子保健・児童福祉他、様々な職種の方にご参加いただき、多様な視点で話し合うことで、立体的に、多面的に、支援を考える機会を作ることができました。

出張研修のご依頼を受け付けています

ピッコラーレは、行政/医療機関/民間支援団体/中高大学等教育機関などの職員向けに、「妊娠葛藤」「特定妊婦」「相談支援」「居場所支援」「包括的性教育」「性と生殖に関する健康と権利(SRHR)」などに関する研修を実施しています。

支援員向けには、ケースワークを取り入れた実践重視の初期研修、フォローアップ研修、スーパーバイズ研修も対応しています。(オンラインも対応可)



詳細は、ホームページのお問い合わせフォームよりご相談ください。
<https://piccolare.org/contact/>



シンポジウムの様子はホームページのイベントレポートでもご報告しています!
<https://piccolare.org/cat-news/20240403-02/>



「妊娠期の居場所づくりシンポジウム ～R6から施行される改正児童福祉法(妊産婦等生活援助事業)に向けて～」を開催しました!



虐待予防は妊娠期からという流れの中で、居所のない若年妊婦の存在を可視化し、「妊婦の居場所」の必要性を過去5年にわたり全国の仲間とともに訴えてきたことが、令和6年4月施行の改正児童福祉法において「妊産婦等生活援助事業」(以下、同事業)法定化という形で実を結びました。同事業の開始を前に、妊産婦等の生活支援や居場所づくりのこれまでの取り組みやこれからの課題や展望について、セクターや団体・機関等の壁を越えて共に学び、考え、対話する機会を設けたいという想いから、2024年2月24日に協働団体の皆さんと一緒に「妊娠期の居場所づくりシンポジウム」を開催しました。当日は、短い告知期間であったにもかかわらず、北海道や東北、九州など遠方からの参加も含め、100名近い参加者・関係者が会場に集まり、その関心の高さを肌で感じる時間となりました。

Program

- I. オープニングセッション 基調講演:令和6年度から施行される改正児童福祉法(特に、妊産婦等生活援助事業)について
- II. 1stセッション 妊娠期の居場所づくりにおける「これまでの歩み」:実践団体からの取り組み・成果報告
- III. 2ndセッション 改正法施行を受けた「これからの展望」:登壇者・発表者・参加者による対話

「妊娠期の居場所づくりシンポジウム」は、「妊娠期の居場所づくりについて考える共同勉強会」が主催しました。開催にあたっては、多くの個人・法人の方々にお力添えをいただきました。ありがとうございました!

▼会場提供
アステラス製薬株式会社様

▼ご寄付
・タレント 福田萌 様
・Raymond Wong 様
・moneレディスクリニック江戸川 様
・リコージャパン株式会社 様
・株式会社ピオーネ 様

・その他、当日参加者からのご寄付(38,309円)

▼主催
妊娠期の居場所づくりについて考える共同勉強会(下記、参画団体)
・社会福祉法人 大念仏寺社会事業団 ボ・ドーム ダイヤモンドルーム
・沖縄の特定妊婦の出産を支える宿泊施設「おにわ」
・公益社団法人小さないのちのドア
・社会福祉法人慈愛会 女性自立支援施設 慈愛寮
・社会福祉法人豊生会 こどもと女性包括支援センター-halu
・認定NPO法人10代・20代の妊娠SOS新宿ーキッズ&ファミリー
・社会福祉法人 妻の子会 にんしんSOSほっかいどうサポートセンター
・認定NPO法人ピッコラーレ ※事務局
・NPO法人PIECES

主な提言活動(2023年度)

2023年11月

緊急避妊薬のOTC化試験の運用に関する要望書提出(主催:緊急避妊薬の薬局での入手を実現する市民プロジェクト)に参加、迅速かつ全面的な緊急避妊薬のOTC化の必要性を現場の視点から発言
<https://piccolare.org/cat-news/20231204/>



2024年2月

「妊娠期の居場所づくりシンポジウム～R6から施行される改正児童福祉法(妊産婦等生活援助事業)に向けて～」開催
<https://piccolare.org/cat-news/20240128/>
<https://piccolare.org/cat-news/20240403-02/>



2023年度
委員・
臨時構成員

こども家庭庁 こども家庭審議会社会的養育・家庭支援部会
委員:中島かおり

埼玉県 孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム運営協議会
委員:松下 清美

Thank You



あたたかいご支援、ありがとうございます！

ピコラーレは、『ピコサポ』のみなさんをはじめ、
様々なご支援者に支えられて活動の継続や、
新たな取り組みにチャレンジすることができています。

『ピコサポ』とは？
ピコラーレの想いを共有し、一緒に
事業をすすめていくパートナーであり
毎月継続的な寄付をする
マンスリースポーターのことです。

ピコサポ
限定交流会

ピコランチ

2023年9月から毎月1回程度
オンライン開催しています



ピコランチとは？

ピコサポの皆さんとピコラーレスタッフとの交
流会「ピコランチ」。2023年度は計12回開催し、23
名の方が参加してくださいました。最近のピコ
ラーレの取り組みや、包括的性教育、海外の
SRHR (性と生殖に関する健康と権利) 動向など、
話題や参加者もその時々で多岐にわたっています。
今後はテーマを決めて学びあう機会も不定期で
取り入れることも企画しています。ピコサポの皆
さんからは、「皆さんで率直に話し合えたのが良
かった」「リアルな部分に触れることができたよ
うな気がして参加して良かった」「少人数で和やか
にお話しできてよかった」などの感想をいただ
いています。



ピコランチの様子

ピコサポの声

「子どもたちの笑顔」のために
(50代男性 Oさん 自営業)



ピコラーレを知るまでは、妊娠葛藤とか特定妊婦という問題が
あること自体、気づいていませんでしたが、これは深刻だと感じました。
自分の事業理念は「子どもたちの笑顔」。そこに直結する問題でした。
子ども支援の団体は多いですが、若年妊婦の支援を
やっているところは少ないので、応援するべきだと思いました。
子育て中に、塾の進路指導の後、長男から「夢も希望もない」と
言われたのが忘れられなくて、それが世の中を変えようとしている
NPOをフォローするようになったきっかけです。
寄付や支援は、気づきや勉強の機会にもなっています。

社会が変わるには時間がかかるから
(40代女性 Sさん 助産師)

助産師なので、いろんな妊婦さんを見ている。
お産は命に関わること。それでも家族にも言えなくて、病院にも
行けないケースがあるんです。それは本人だけの問題ではないし、
家族だけの問題でもありません。社会の問題だと思います。
社会が変わるには時間がかかります。
一回限りの寄付では終わらない、継続的な寄付が
必要だと思ってピコサポになりました。
ピコラーレのやっている居場所事業「びさら」や
ピコの保健室も本当に必要性がわかるので、
長いスパンで応援したいと思っています。



現在ピコサポは294名(24年3月末時点)、サポーターとしてピコラーレの活動に参画して下さる仲間をまだまだ募集中です！
今後もピコサポの皆さんとコミュニケーションをとりながら、一緒にピコラーレの活動を続けていきたいと思っています。

クラウドファンディング



「誰にも頼れない妊娠をなくしたい。
相談から途切れない支援を一緒に」

2023年11月1日～12月22日



703名の方から
12,465,210円の
ご支援をいただきました！

事業全体で必要となる活動資金確保のために、2023年11月1日～12月22日の期間で
目標金額1,000万円のクラウドファンディングを実施しました！

最終的に、703名の方から12,465,210円という多大なご支援をいただくことができました。

たくさんの応援にメンバー一同、とても勇気づけられる時間でもありました。

クラウドファンディングを通して支援の輪を広げてくださった皆さん、本当にありがとうございました！

クラウドファンディング開催期間中には、オンライントークイベントも
開催し、123名の方にお申込みいただきました。

12月14日(木)
地域と寄付でつくる心地よい居場所
～枠を超えたサポートと自分らしいNPOとの関わり～
ゲスト:荒井佑介さん モデレーター:安田恵輔さん

同じ豊島区を拠点とする NPO法人サンカクシャ代表理事 荒井さん、
株式会社サンシャインシティ まちづくり推進部エキスパート 安田さんと、
居場所の運営や寄付の必要性についてお話し、
「寄付だからこそできること」を再認識できるイベントとなりました。

また、期間中には、クラウドファンディング公開記念
オープニングイベントやピコラーレ5周年記念
イヤーキックオフイベントもライブ配信し、多くの
方にご視聴いただきました。
クラウドファンディング終了後には、ご支援くだ
された方へのリターンの一つとして、「居場所の
運営で工夫について現場メンバーと話す会」を
オンラインで開催。10名の支援者に参加
いただき、居場所「びさら」のバーチャル
ツアーを実施したり、質問に
お答えしたりしました。

ご参加ありがとうございました！

活動説明会 (2022年5月～毎月開催！)

多くの方に私たちの課題意識や活動内容について知ってもらうため、
毎月1～2回の頻度でオンライン活動説明会を開催しています。
2023年度は116名の方にご参加いただき、さらにその中で11名の方が
マンスリースポーター『ピコサポ』の仲間になってくださいました！
これから活動に参加したい方や既にピコサポ・賛助会員の方など、
どなたでもご参加いただけます。詳細はホームページのお知らせに
記載していますので、ぜひお気軽にご参加ください。

ご参加お待ちしております♪

インターン・プロボノでのご支援

2023年度も新たに5名(学生3名・社会人2名)の
方がインターン・プロボノとして広報/FRチームや
リサーチチームなどに参画し、それぞれの経験や
スキルを活かして活動を支援してくださいました！

Thank You



あたたかいご支援、ありがとうございます！

助成金でご支援いただきました！

● 休眠預金活用事業

- 「孤立孤独/生活苦を抱える若者への緊急支援事業 ～新たなアウトリーチ手法の活用で、『受援力』の壁を超える～」
(資金分配団体:認定NPO法人D×P・READYFOR 株式会社)
- 「様々な困難で困窮する女性の経済的自立支援事業」
(資金分配団体:公益財団法人パブリックリソース財団)

● タケダ・女性のライフサポート助成プログラム(日本NPOセンター)

● シングルペアレンツ・エンパワメント・プログラム

by American Express(Asian Venture Philanthropy Network)



表彰実績

- 第59回社会貢献者表彰(主催:公益財団法人社会貢献支援財団)
- エクセレントNPO大賞(主催:「エクセレントNPO」をめざそう市民会議)課題解決力賞
- 第18回社会貢献活動見本市(主催:NPO法人としまNPO推進協議会)としまユネスコ協会賞



物品寄付

食品・衣類等日用品

- 一般社団法人 若草プロジェクト
- 公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン
- としま子ども若者応援プロジェクト
 - 株式会社ナルミヤ・インターナショナル
 - ラフベース株式会社
- 社会福祉法人豊島区民社会福祉協議会
- 新宿子ども食堂たんすまち
- オハナ合同会社
- 株式会社ロゴナジャパン
- 株式会社フロック
- 東京IIIゾンタクラブ

ヘルスケア商品

ピコの保健室やびこカフェなどで活用させていただきました！

- アストログライドジャパン
- オカモト株式会社
- 相模ゴム工業株式会社
- ジェクス株式会社
- 株式会社たかくら新産業
- 株式会社TENGAヘルスケア
- 中西ゴム工業株式会社
- 不二ラテックス株式会社
- 持田ヘルスケア株式会社

その他

- 一般社団法人つくろい東京ファンド(つながる電話・アンブレラ基金)
- 日本女性財団(経済的に困窮する女性への医療支援)

個人の皆さまからAmazonウィッシュリストや乳児用衣類等物品寄付のご支援もいただきました！

主な講演・メディア実績 2023年4月～2024年3月



講演実績

■ 行政・公的機関

- こども家庭庁
- こども家庭庁支援局 虐待防止対策課
- 人事院
- 独立行政法人 国際協力機構
- 新宿区子ども家庭部 男女共同参画課
- 世田谷区玉川総合支所 保健福祉センター健康づくり課
- 川崎市麻生区役所 生涯学習支援課
- 町田市役所 子ども生活部子育て推進課事業係
- 日野市役所 子ども家庭センター
- 豊島区教育センター
- 墨田区 向島保健センター

■ 民間団体

- 公益社団法人 日本フィランソロピー協会
- 公益財団法人 日本財団
- 赤い羽根福祉基金
- 全国婦人相談員連絡協議会
- 特定非営利活動法人 PLAS
- 特定非営利活動法人 ETIC.
- 特定非営利活動法人 青い空一子ども・人権・非暴力
- 特定非営利活動法人 市民社会創造ファンド
- 一般社団法人 エンドオブライフ・ケア協会
- 一般社団法人 日本母子看護学会
- 一般社団法人 日本経営協会
- 社会福祉法人 渋谷区社会福祉事業団ブルーメ
- 社会福祉法人 中央共同募金会
- 小金井社会福祉士会
- 児童養護施設 東京育成園
- 医療法人社団 やまと
- 東京都ひとり親家庭支援センター はあと
- 東京池袋西ロータリークラブ
- 東京ボランティア・市民活動センター
- 司法修習生フォーラム

■ 企業

- アクセンチュア株式会社
- 武田薬品工業株式会社
- 富士通株式会社

■ 教育関係

- 東京家政大学人文学部
- 杉並区立松溪中学校

■ 助産師会

- 公益社団法人 神奈川県助産師会

■ 病院

- 社会医療法人愛育会 福田病院

メディア掲載

■ 新聞

- 2023年9月29日
- しんぶん赤旗
- 首都圏発「ジェンダー平等と私」困っている女性に声かけ

2023年12月15日

- 東京新聞
- 妊婦の孤立なくしたい
- NPO法人がクラファン募る 相談窓口や居場所で支援

2023年12月19日

- 産経新聞
- 一筆多論 若年妊婦を支える場の力

■ オウンドメディア

- 2023年5月15日
- 彩流社ウェブコンテンツ「彩マガ」
- 「起業」女子 ～コロナ禍でも前向きに生きる～ 第25回

2023年11月

- UMU
- 性や生殖について自己決定が難しい日本社会は、どうすれば変わるか。
- ピッコラーレ代表・中島かおりさんと考える、これからのSRHR。
- 前編(2023年11月7日)
- 後編(2023年11月22日)

2024年3月8日

- Forbes JAPAN
- 国際女性デーに考える
- 「漂流妊産婦」の居場所づくり法制化で前進すること

2024年3月

- 日テレNEWS
- 望まない妊娠①
- “生後0か月で亡くなる赤ちゃん”…妊婦の葛藤と相談先(2024年03月15日)

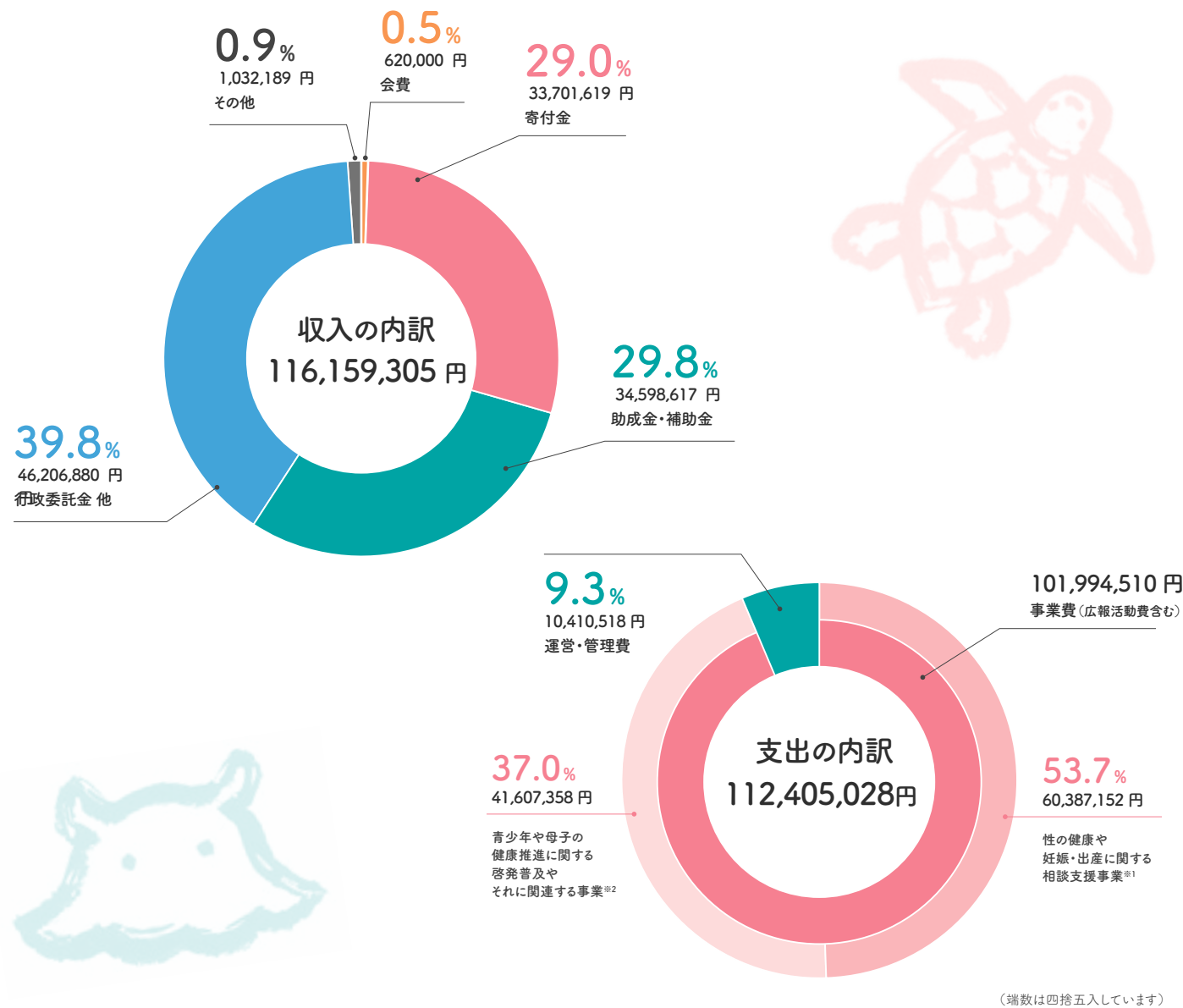
望まない妊娠②

- 誰にも知られたくない…
- 孤独で一人で産むしかないと思う全ての妊婦さんへ(2024年03月16日)

望まない妊娠③

- 日頃から若者の性の悩み聞く場が必要(2024年03月16日)

※一定額以上のご支援をいただいた法人・団体さまを掲載しています。(敬称略・50音順)



科目	金額
会費	正会員受取会費・賛助会員受取会費 620,000
受取寄付金	33,701,619
受取助成金等	受取助成金・受取補助金 34,598,617
事業収益	性の健康や妊娠・出産に関する相談支援事業収益 39,509,328
	青少年や母子の健康推進に関する啓発普及やそれに関連する事業収益 6,697,552
その他の収益	受取利息・雑収入 1,032,189
経常収益計	116,159,305
事業費	人件費 65,021,977
	その他諸経費 36,972,533
	事業費計 101,994,510
管理費	人件費 6,213,282
	その他経費 4,197,236
	管理費計 10,410,518
経常費用計	112,405,028
当期経常増減額	3,754,277
経常外収益	0
経常外費用	605,779
当期計上外増減額	△605,779
税引前当期正味財産増減額	3,148,498
法人税・住民税及び事業税	70,000
前期繰越正味財産額	19,277,066
次期繰越正味財産額	22,355,564

※1 性の健康や妊娠・出産に関する相談支援事業：相談支援、研修、啓発、調査研究・政策提言 ※2 青少年や母子の健康推進に関する啓発普及やそれに関連する事業：居場所事業



ご支援のお願い

ピッコラーレは、2022年12月に認定NPO法人になりました。認定NPO法人ピッコラーレへのご寄付は、「寄付金控除」の対象になります。



ピッコラーレの活動は、皆さまのご支援に支えられています。「『にんしん』をきっかけに、だれもが孤立することなく、自由に幸せに生きることができる社会」の実現に向けて、広報やご寄付等での応援、どうぞよろしくお願いいたします。

寄付をする

妊娠で孤立しない社会をつくるために、サポーターとしてピッコラーレの活動に参加して下さる方を募集しています。

マンスリーサポーター制度『ピコサポ』

毎月の継続的なご支援です
1,000円、2,000円、3,000円、5,000円、10,000円、30,000円
の6種類から選べます。



マンスリーサポーターの登録は、クレジットカード決済のみとなります。

都度のご寄付

いつでもご寄付いただけます。

ご寄付の方法



クレジットカード

各種クレジットカードをご利用いただけます。



<https://piccolare.secure.force.com>
※マンスリーサポーター、クレジットカード、賛助会員すべて共通です。

お振込

ゆうちょ銀行
記号：00130 番号：515041

※他行よりお振込みの場合
店名 ○一九(019)
当座 0515041
特定非営利活動法人ピッコラーレ

※お振込にてご寄付いただいた方は、お手数ですが、お名前、電話番号、郵便番号、住所のご記入をお願い致します。お礼のご連絡や活動の報告をさせていただきます。

郵便振替

口座番号：00130-0-515041
口座名義：トクヒ)ピッコラーレ

賛助会員になる

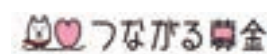
わたしたちの活動にご賛同頂き、継続的に参加・協力・支援くださる賛助会員を募集しています。

賛助会員年会費

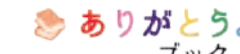
個人 一口 5,000円
団体 一口 50,000円



その他の支援方法



ソフトバンクの寄付サービス。携帯電話利用料金やTポイントのお支払いと一緒に寄付いただけます。



ご不用になった本・DVD・CD・ゲームなどをお送り頂くことで、支援できる仕組みです。



使わなくなったお家に眠っている“お宝”をお送りいただくことで、支援できる仕組みです。



書籍を買う



妊娠葛藤白書
—にんしんSOS東京の現場から2015-2019—

NPO法人ピッコラーレ